

支部情報

カーネーションのオオタバコガに対する 黄色 LEDによる防除効果試験

オオタバコガは、薬剤抵抗性が発達していること、蕾に侵入し選花時に気付かないこともあり、難防除害虫となっている。農薬散布、黄色蛍光灯、黄色ナトリウム灯、防虫ネットの利用等の方法により防除確立してきたが、初期投資額、ランニングコスト等の問題があった。

今回黄色LED灯による防除用製品が開発されたことから、この効果を現地確認し普及性を探る試験を行った。

カーネーションの産地である富士見町立沢で実施した試験は8月5日に黄色LEDを30灯(23a)と無設置区を設置した。調査は、①光量調査、②被害調査(生卵数・死卵数・食害幼虫数)を8月5日から9月29日まで毎週行った。被害調査結果では、黄色LED区で、9月8日のみで生卵が3卵確認された。なお、これらの卵はLED設置前に産卵されたものと推測される。死卵数や食害・幼虫数とも低いレベルであった。無設置区は計4回生卵が確認(最高5、計10卵)されており、死卵数や食害・幼虫数を比較しても設置効果は高いと考えられた。農家の感想は「被害はほとんど見られなかった。黄色LED等の効果はあると思う。」とのことであった。これらの結果を基に更にJAと協力し検討する事としている。

なお、この具体的な事項については、5月号で野菜花き試費嶋主任研究員から詳細に解説頂く予定である。
(諏訪支部 宮嶋護)

鳥獣害対策への取り組み

近年上伊那地域でも野生鳥獣による農林水産物への被害が増加し、その被害は855ヘクタール、約1億円と大きな問題となっている(平成19年地方事務所調査)。そこで平成19年10月30日、野生鳥獣保護管理対策協議会を設置し野生鳥獣害対策への支援を開始した。

○野生鳥獣農業被害マップの作成と更新

平成19年度に管内の鳥獣害の被害状況がわかるようにマップを作成した。これは被害を受けたほ場ごとに、被害をあたえた野生鳥獣の種類、防除施設の設置の有無、施設の種類、被害作物、被害時期等を記入した地図を各市町村で作成し被害対策チームでまとめたものである

この地図は現地研修会等でも被害状況の把握や対応策の検討に利用されている。今後も対策協議会等の機会毎に修正を加え精度の高いものにしていく予定である。

○研修会による鳥獣の特性理解と防除意識の向上(写真1)

鳥獣被害に対する対応は最近まで林業関係や山間農地でのことと認識されていたため、農業関係者の野生鳥獣に対する意識や知識は低く、ビニールテープや網を張ったり、俗説により農家個々が対応していたのが効果がなく被害が増大するなかで農家や指導者が正しい知識を習得し対応策を確実に実施することが必要であるということから各地で講習会を実施した。

講習会ではまず被害マップを見ながら集落の被害状況、対策の実施状況、柵等設置後の状況、困っていることなどを出して、助言者等からアドバイスを受け、その後現場で防御柵を点検し、より良い対策となるように検討するというものである。

(駒ヶ根市東伊那、伊那市長谷 辰野町沢底、飯沼、下横川、飯島町で実施)

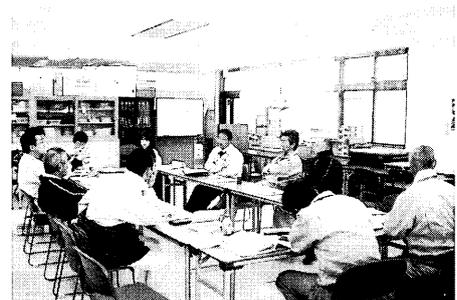
その他にも信州大学農学部キャンパスでの営農指導者獣害防除対策研修、「第5回明日に輝け!上伊那ファーマーズの集い」でのジビエ料理の紹介、牛の放牧による荒廃農用地の解消、ニホンジカの一斉捕獲時の搬出支援等にも取り組んでいる。

(上伊那支部 齊藤勝彦)

地域企業との連携による商品開発の取組

飯田市では、地元企業の旭松食品(本店:飯田市)とのパワーアップ協定を締結し、地域ブランドの創出と地域産業の活性化に取り組んでいる。そのひとつとして、南信州産大豆を活用した各種商品開発がある。当初平成17年には、中山間地における大豆振興対策と各種品種に適した商品化研究を行った。その中で商品化が見込める数品種を絞り込み、商品開発が進んでいる。栽培初年となった平成18年度は、飯田市

山本地区の遊休地ほかを活用し、65a、1.2tの生産があった。このことから遊休農地の解消ほかを目的としてNPO法人「みどりの風」が設立され、大豆生産の推進を始めた。生産現場で最も課題となる収穫作業の改善に、飯田市とJAみなみ信州の支援を受



旭松食品担当者との出荷検討会



写真1 現地講習会の様子